

チリの落葉果実事情(生食用ブドウ、リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2023年5月17日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の要点及び生食用ブドウとリンゴの項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

報告書の要点

海外農業局サンチャゴ事務所は、2022/23販売年度(以下「年度」)の生食用ブドウの生産量を前年比8.6%減の72万トン、輸出量を8.7%減の55万5千トンと推定する。同事務所はまた、2022/23年度のリンゴの生産量を栽培面積の減少により2.9%減の100万トンと推定する。リンゴの輸出量は3.2%減の58万3千トンと推定される。洋ナシについては栽培面積の減少傾向を考慮し、同事務所はチリの2022/23年度の洋ナシの生産量を4.8%減の21万トン、輸出量を4.9%減の11万トンと推定する。(以下、洋ナシについては省略)

<生食用ブドウ>

表1 チリの生食用ブドウ生産需給統計

生食用ブドウ(生鮮) 販売年度 チリ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～2021年9月		2021年10月～2022年9月		2022年10月～2023年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	45,489	45,489	43,104	43,104	42,500	42,500
収穫面積	44,000	44,000	43,000	43,000	42,000	42,000
商業的生産量	660,000	660,000	788,110	788,110	732,000	720,000
非商業的生産量	4,700	4,700	5,000	5,000	4,800	4,800
生産量合計	664,700	664,700	793,110	793,110	736,800	724,800
輸入量	700	700	900	900	700	700
総供給量	665,400	665,400	794,010	794,010	737,500	725,500
生鮮国内消費量	139,900	139,900	185,810	185,810	182,500	170,500
輸出量	525,500	525,500	608,200	608,200	555,000	555,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	665,400	665,400	794,010	794,010	737,500	725,500

単位: ヘクタール、トン

出典: サンチャゴ事務所推計

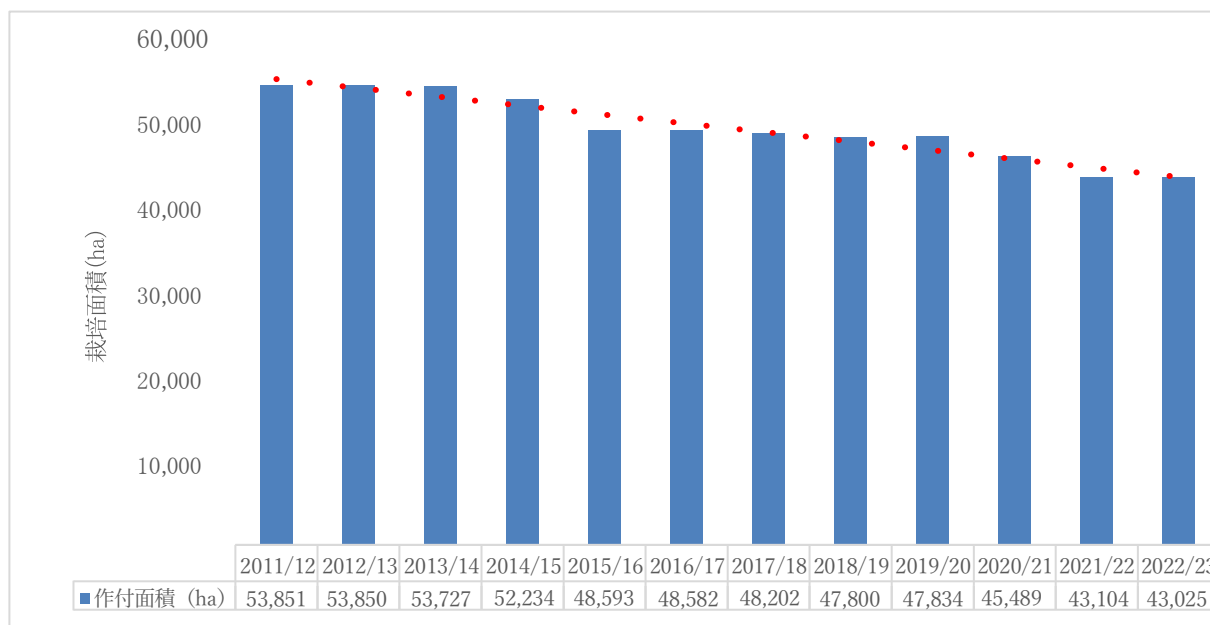
生産

当事務所は、2022/23年度の生食用ブドウの生産量を8.6%減の72万トンと推定する。生産量の減少は、栽培面積の減少と、国の中央部における悪天候に起因する収量の低下によるものである(図1)。生食用ブドウの栽培面積は、収益性の低さと輸出市場におけるペルー産との競争により減少傾向にある。栽培面積は、2011/12年度の5万3,851ヘクタールから2022/23年度には4万3,025ヘクタールに減少した。

農業研究政策局(ODEPA)のデータによると、すべての生食用ブドウ産地で栽培面積が減少している(表2)。米国市場におけるペルーとの競争、高い生産コスト(人件費、輸送費、農薬・化学肥料)及び生食用ブドウの品種更新の必要性が、生食用ブドウ輸出業者に下向きの圧力をかけている。栽培面積の減少は、生食用ブドウ生産に代わるものがほとんどないアタカマ州で特に顕著である。コキンボ州とバルパライソ州では、生食用ブドウの栽培面積の減少は、柑橘類の栽培面積の増加によって相殺されている。

首都州とオイギンス州の生食用ブドウ栽培面積は、過去3販売年度の間それぞれ14.1%及び52%減少した。これらの州では、生食用ブドウの園地は、クルミ、サクランボ、柑橘類などのより収益性の高い作物に置き換えられるか、都市の拡大に飲み込まれた。

図1 生食用ブドウの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2023

表2 生食用ブドウの州別栽培面積 2022/23 年度 単位: ヘクタール

地域	栽培面積 (ha)	増減率*	シェア
アタカマ州	5,987	-12.4%	13.9%
コキンボ州	7,321	-10.3%	17.0%
バルパライソ州	9,970	-10.9%	23.2%
首都州	6,848	-14.1%	15.9%
オイギンス州	12,736	-5.2%	29.6%
マウレ州	163	-32.3%	0.4%
その他	1		
合計	43,025	-10.7%	100.0%

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典: 農業省農業研究政策局 (ODEPA) の 2023 年のデータに基づく

消費

当事務所は、2022/23年度の生食用ブドウの生鮮国内消費量を、商業的生産量の23.6%に当たる17万500トンと推定する。この消費水準は、2021/22年度に比べて8.2%少なく、生産量の減少とそれに起因する価格の上昇によって説明される。

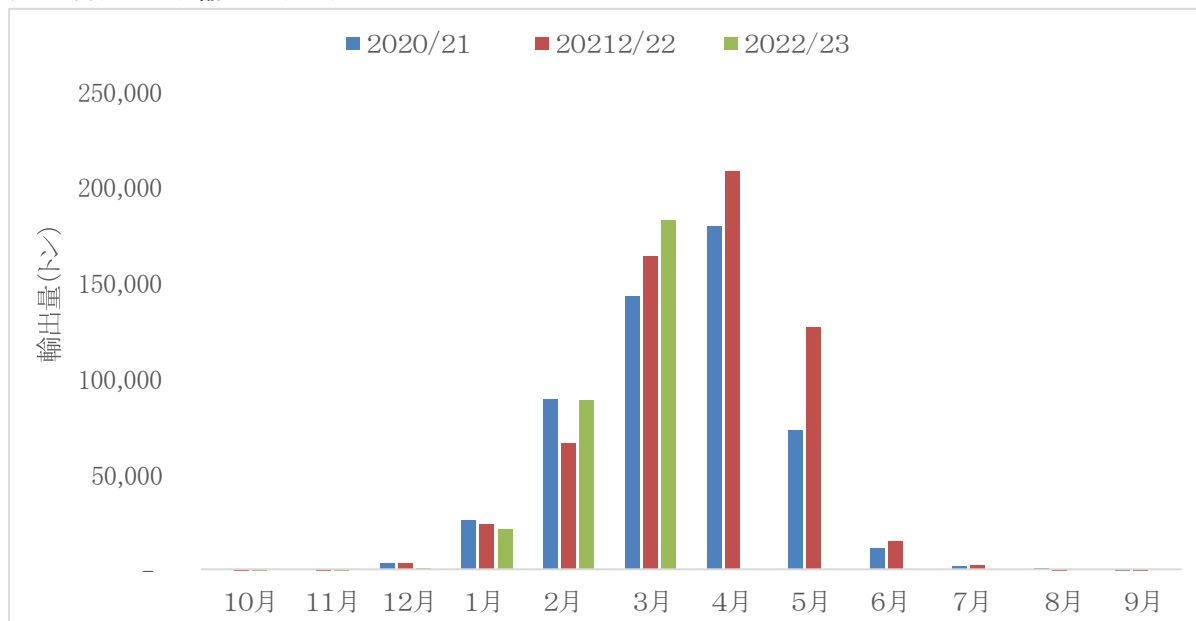
貿易

当事務所は、2022/23年度の生食用ブドウの輸出量を、生産量の減少に伴い8.7%減の55万5千トンと推定する。2022/23年度の3月までのデータによると、生食用ブドウのこの期間の輸出量は2021/22年度よりも14.2%多い。しかし、2021/22年度には、物流全般の問題と港湾における遅延のため(輸出の立ち上がりが遅く)、ピークが4月にずれ込んだ(図2)。通常、チリの生食用ブドウの輸出は3月にピークに達するため、当事務所は、2022/23年度の4月と5月の輸出量は、2021/22年度の同じ月と比較して減少すると予想する。

2021/22年度の生食用ブドウの輸出量は、前年比15.7%増の60万8,200トンであった(表3)。米国はチリ産生食用ブドウの主要な輸出市場である。米国向け輸出量は31万333トンで、これはチリの生食用ブドウ輸出量の51%に相当する。2022/23年度の3月までのデータによると、米国向けの生食用ブドウの輸出量は7.4%増の19万3,409トンとなっている(表3)。

中国はチリの生食用ブドウの2番目に大きな市場であり、2021/22年度には7万7,627トンとチリのブドウの総輸出量の12.8%を占めた。2022/23年度(3月までのデータ)は、チリの中国向けの輸出は32.3%増の2万3,582トンとなっている。

図2 月別ブドウ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表3 チリの生食用ブドウ輸出量(トン)

輸出先国	販売年度			年度初めから3月まで		
	2020/21	2021/22	変動率	2021年10月 ~2022年3月	2022年10月 ~2023年3月	変動率
世界合計	525,457	608,194	15.7%	256,524	292,905	14.2%
米国	254,825	310,058	21.7%	180,124	193,409	7.4%
中国	78,117	77,627	-0.6%	17,823	23,582	32.3%
オランダ	28,030	45,196	61.2%	5,042	8,806	74.7%
英国	18,175	23,789	30.9%	4,497	5,848	30.0%
韓国	23,222	17,952	-22.7%	9,130	11,037	20.9%
日本	11,535	14,118	22.4%	9,775	10,730	9.8%
メキシコ	9,112	11,239	23.3%	6,445	6,543	1.5%
スペイン	9,489	10,536	11.0%	1,987	4,458	124.4%
エクアドル	9,011	9,654	7.1%	2,870	3,014	5.0%
カナダ	10,892	9,600	-11.9%	4,060	5,001	23.2%
インドネシア	9,392	7,431	-20.9%	447	369	-17.4%
ブラジル	3,873	6,551	69.1%	1,145	2,499	118.3%
台湾	2,842	5,721	101.3%	1,166	1,619	38.9%
ドイツ	3,202	5,641	76.2%	840	1,482	76.4%
ポルトガル	3,888	4,694	20.7%	812	946	16.5%
その他	49,852	48,387	-2.9%	10,361	13,562	30.9%

出典: Trade Data Monitor, LLC.

政策

チリは3つの産地(アタカマ州、コキンボ州、バルパライソ州)から米国への市場アクセスを改善するためシステムアプローチの採用を求めている。システムアプローチは、ヨーロッパドウ蛾(仮称、ハマキガ科の *Lobesia botrana*)に対する臭化メチル燻蒸の使用を回避することにより、これら3つの地域に利益をもたらす。燻蒸は果実の品質と貯蔵寿命を低下させ、その結果、小売業者への販売価格の低下につながる。さらに、燻蒸した果実は米国農務省の有機認定を受けることができない。

米国農務省の動植物検疫局は、2022年10月17日に連邦官報に規則案を公表し、コメント期間は2023年1月17日に終了した。現在、チリ当局と輸出業者らは最終的な規則の公表を待っている。

<リンゴ(生鮮)>

表4 チリのリンゴ生産需給統計

リンゴ(生鮮) 販売年度 チリ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月～2021年12月		2022年1月～2022年12月		2023年1月～2023年12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	32,314	32,314	30,967	30,967	30,500	29,035
収穫面積	31,300	31,300	30,000	30,000	29,500	28,500
結果樹本数	34,430	34,430	33,000	33,000	32,500	32,500
未結果樹本数	2,400	2,400	2,300	2,300	2,250	2,250
果樹総本数	36,830	36,830	35,300	35,300	34,750	34,750
商業的生産量	1,088,700	1,088,700	1,036,000	1,030,000	1,030,000	1,000,000
非商業的生産量	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
生産量合計	1,098,700	1,098,700	1,046,000	1,040,000	1,040,000	1,010,000
輸入量	3,300	3,300	3,000	3,000	3,000	3,000
総供給量	1,102,000	1,102,000	1,049,000	1,043,000	1,043,000	1,013,000
国内消費量	458,300	458,300	439,000	440,419	438,000	430,000
輸出量	643,700	643,700	610,000	602,581	605,000	583,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	1,102,000	1,102,000	1,049,000	1,043,000	1,043,000	1,013,000

単位: ヘクタール、千本、トン

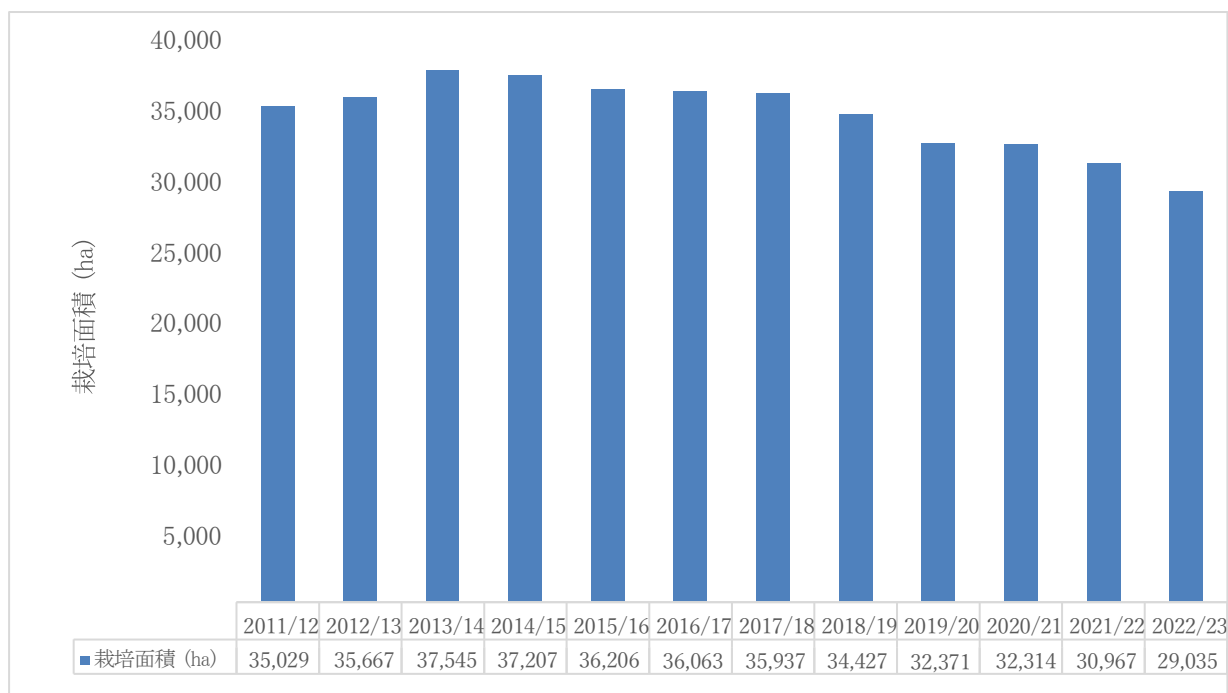
出典: サンチャゴ事務所推計

生産

当事務所は、2022/23年度のリンゴの生産量を、2021/22年度に比べ2.9%減の100万トンと推定する(表4)。2022/23年度のリンゴの栽培面積は6.2%減少し、2万9,035ヘクタールとなった。良好な気象条件によって収量が増加したため、生産量の減少率は栽培面積の減少率より小さい。雨の多い冬、長い低温時間及び春の穏やかな気温がリンゴの収量に有利に働いた。

ODEPAの最新データによると、チリのすべてのリンゴ産地で栽培面積が減少した(表5)。リンゴの栽培面積の減少は、この品目が輸出市場で直面している競争の激しさと利益の低さによって説明される。国の中南部のマウレ州とオイギンス州は、それぞれ栽培面積の62.4%と22.0%を占め、併せて総栽培面積の84.4%を占めている。しかし、多くの生産者が所有する果樹園では、新しい品種やサクランボ、クルミなどの他の品目と比較して収益性の低い古い品種を栽培しているため、両州で栽培面積が減少した。

図3 リンゴの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2023

表5 リンゴの州別栽培面積 2022/23 年度 単位: ヘクタール

地域	栽培面積(ha)	増減率*	シェア
バルパライソ州	144	-4.1%	0.5%
メトロポリタン州	83	-38.0%	0.3%
オイギンス州	6,388	-17.4%	22.0%
マウレ州	18,110	-4.2%	62.4%
ニュブレ州	860	-14.3%	3.0%
ビオビオ州	584	-6.3%	2.0%
アラウカニア州	2,834	-7.4%	9.8%
その他	31		0.1%
合計	29,035	-10.3%	100.0%

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典：農業省農業研究政策局(ODEPA)の2023年のデータに基づく

消費

当事務所は、2022/23年度のリンゴ(生鮮消費用及び加工用)の国内消費量を合計43万トンと推定しており、これは商業的リンゴ生産量全体の43%に相当する。リンゴの国内消費量は、生産量の減少に伴い2021/22年度に比べて2.4%減少すると見られる。チリの高水準のインフレによって消費が押し下げられ、消費量が減少した。業界関係者は、価格が上昇する中、チリの消費者は消費者支出を最小限に抑えるため、小玉のリンゴを購入したが、全体的な購入量も減少したと指摘している。

政策

報告すべき新しい政策の進展はない。

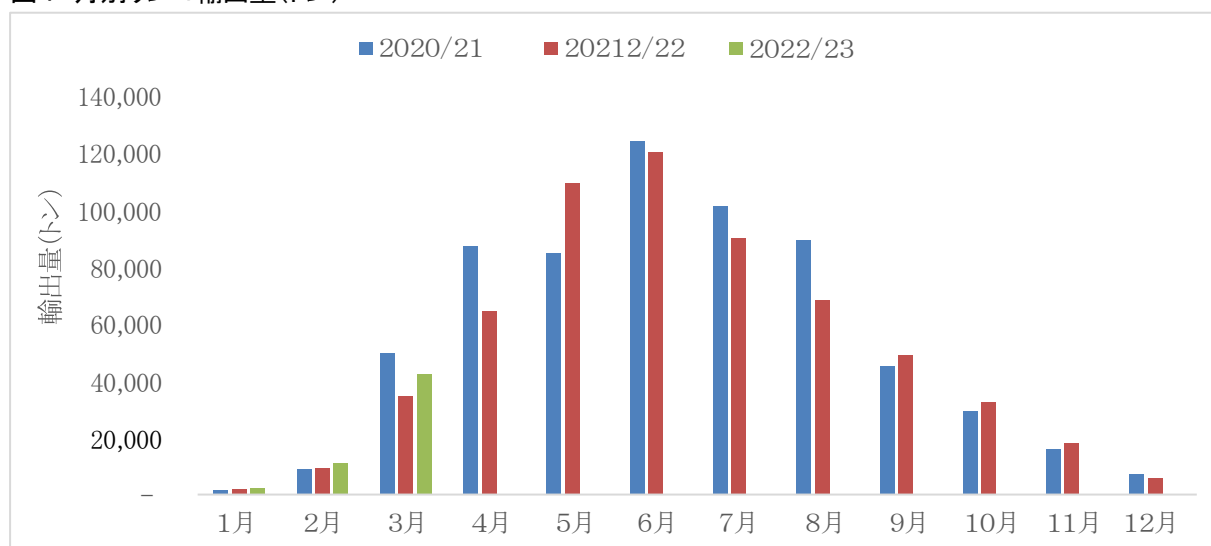
貿易

当事務所は2022/23年度のチリのリンゴ輸出量を、2021/22年度に比べて3.2%減の58万3千トンと推定する。2022/23年度は収量が増え、栽培面積の減少の一部を相殺するはずであり、したがって輸出量の減少は栽培面積の減少よりも小さいと見られる。

2021/22年度のチリのリンゴ輸出量は、2021/22年度から6.4%減の60万2,581トンであった。チリのリンゴ輸出業者にとっての2021/22年度の主な困難は運賃の上昇であり、輸出業者は赤字での運営を強いられた。2022/23年度には運賃が下がり、輸出業者はコストの低下により輸出量を増やすものと見込まれる。

コロンビアはチリ産リンゴの最大の市場である。チリは2021/22年度に8万5,899トンのリンゴをコロンビアに輸出し、これはチリのリンゴ輸出量の14.3%に相当する(表6)。ブラジルはチリ産リンゴの2番目に大きい市場である。2021/22年度には、海上輸送よりも陸上輸送のコストが低かったため、ブラジルへの輸出は412%増加した。2021/22年度には、リンゴ輸出業者は米国に出荷するための高い運賃に直面していたが、2022/23年度にはチリ産リンゴの米国への輸出量は6.9%増加し、これは運賃の正常化によって説明される。

図4 月別リンゴ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表6 リンゴの輸出先別輸出量(トン)

輸出先国	販売年度			年度初めから3月まで		
	2020/21	2021/22	変動率	2022年1月 ~2022年3月	2023年1月 ~2023年3月	変動率
世界合計	643,736	602,581	-6.4%	45,552	55,590	22.0%
コロンビア	74,348	85,899	15.5%	14,504	16,671	14.9%
ブラジル	12,722	65,193	412.4%	2,011	3,758	86.9%
米国	60,496	52,669	-12.9%	1,324	1,415	6.9%
エクアドル	52,586	47,169	-10.3%	7,883	8,267	4.9%
ペルー	35,330	39,013	10.4%	4,879	4,162	-14.7%
インド	56,297	35,003	-37.8%	1,241	520	-58.1%
オランダ	49,013	33,819	-31.0%	981	1,778	81.2%
台湾	34,093	29,432	-13.7%	0	0	0.0%
サウジアラビア	35,913	23,848	-33.6%	2,154	4,053	88.2%
ドイツ	26,662	19,903	-25.4%	41	635	1448.8%
英国	30,080	18,770	-37.6%	246	242	-1.6%
グアテマラ	14,255	16,427	15.2%	1,381	1,637	18.5%
ボリビア	16,514	15,992	-3.2%	2,165	2,305	6.5%
フランス	17,556	12,693	-27.7%	402	48	-88.1%
中国	7,645	11,497	50.4%	419	463	10.5%
その他	120,226	95,254	-20.8%	5,921	9,636	62.7%

出典: Trade Data Monitor, LLC.